



日章学園九州国際高等学校校長便り 神無月
 建学の精神：道義に徹し、実利を図り、勤労を愛す
 学園スローガン： **自分を磨け**
 学校教育目標：国際的視野と人間性豊かな心を持ち、自ら学び考え、自己の課題を解決できる生徒を育成する。
 令和6年(2024年)10月1日(火) 校長 屋田伸仁



限界突破



夕方、川内川のほとりをジョギングしていると、バッタが草むらからあわててよく飛び出してきました。2～3m飛んだかと思うと、草むらにまたすぐ隠れます。バッタはジャンプ力に優れていますが、長い距離を飛ぶことはできません。しかし、以前、テレビでバッタの大群が空を飛んで大移動している様子を見たことがあります。番組では、干ばつ等で食料が減り、生活範囲が狭くなって、生き残るために、羽を大きく進化させて羽が長くなって遠くまで飛べるようになったと説明していました。バッタは、自分の能力に限界を設けていません。生き残るために、羽を進化させて**限界突破**しているのです。

8月28日から、9月8日までの12日間にわたり、**パリパラリンピック**が開催されました。競技後の選手達の涙のインタビューを拝見して、メダル獲得のために、人知れぬ、厳しい、過酷な練習や努力をしてきたのだと知って、胸が熱くなりました。体のハンディキャップを乗り越えて挑戦する選手達の姿をテレビで観戦して、人間の壁や限界はあるのだろうかと思いました。



先ほどの空飛ぶバッタも初めは飛べなかったけれど、自分の成長に限界を作らずに、飛び立てる羽を作って変身しました。人間も自分の能力に限界を作らなければ、必ず**限界突破 (ブレイクスルー)** できるのだと思います。

しかしながら、私たちは、「これは無理だ、ダメだ。」と決めつけていることはないでしょうか。自分の想像の世界で、限界を決めて、見切りをつけていないでしょうか。壁や限界を超えてがんばるパラリンピックの選手達から学びたいものです。

此の世をば 我が世とぞ思ふ



秋のお月見は、昔からある日本の風習です。日本は**十五夜**があり、中国は**中秋節**があります。今年、9月17日(火)が十五夜でした。一年で最も美しい秋の月は「**中秋の名月**」と呼ばれます。現在、NHK大河ドラマ「**光る君へ**」が放映されています。**紫式部**の「**源氏物語**」は「**光源氏**」の恋愛ストーリーで、「**藤原道長**」がモデルだと言われています。その藤原道長は平安時代に絶頂を極めた人物です。3人の娘を皇后にし、三代の天皇の祖父になりました。そして、絶大な権力を持ちました。道長自ら詠った有名な歌があります。

「此の世をば 我が世とぞ思ふ 望月の 欠けたる事も 無しと思へば」

(歌意：此の世はすべて自分のものようだ。私の人生には、満月と同じように欠けたところが一つもない。)

道長の栄華を詠ったこの歌を道長の傲慢だと低く評価する声もあります。一方、ある本を読んで、感心したことがあります。三代も続いて孫が天皇であれば、次は自分が天皇になろうと思っても、よいのに、道長はそんなことを考えませんでした。なぜなら、日本の古代は神話を事実と考えて動いていた時代だからだそうです。どういうことかという、神話によれば藤原氏の先祖は**天兒屋根命**で、**天照大御神**の**天の岩戸**の前で祝詞をあげました。それ以来、藤原氏は天皇の家来という立場をずーっと、守り通してきたということです。宮崎県は**天孫降臨**の**神話の国**です。天照大御神の**天の岩戸**もあります。神話と藤原氏との深い関係性を知って驚き、宮崎県に住んで、古代の歴史を一層身近に感じました。

さて、10月は本格的に大学受験や就職試験が始まります。一般生や留学生の皆さん、苦学して、念願の大学や就職試験に見事合格したら、夜空の満月を見て、ぜひ、道長の歌を詠ってみてください。自分で自分を褒めて、達成感や喜びを最高に味わってほしいと願います。

